

月刊 しばうら

2022年 1月号

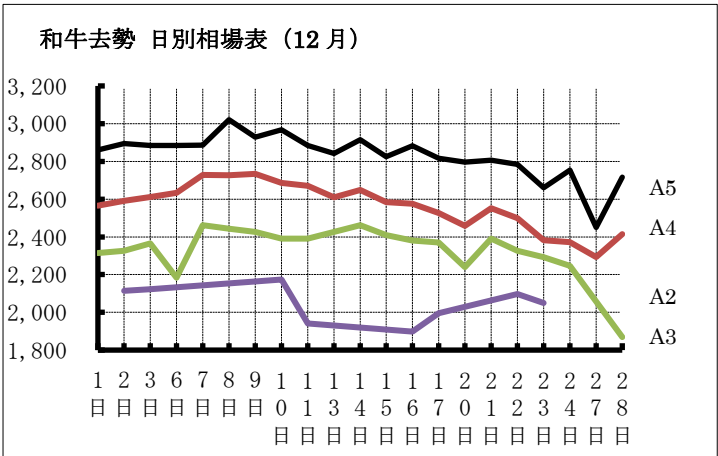
謹んで新年のご祝詞を申し上げます
 旧年中は格別のご厚情にあざかり
 心より御礼申し上げます
 本年もなお一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます
 令和四年元旦

牛肉営業部

＜12月の相場動向＞

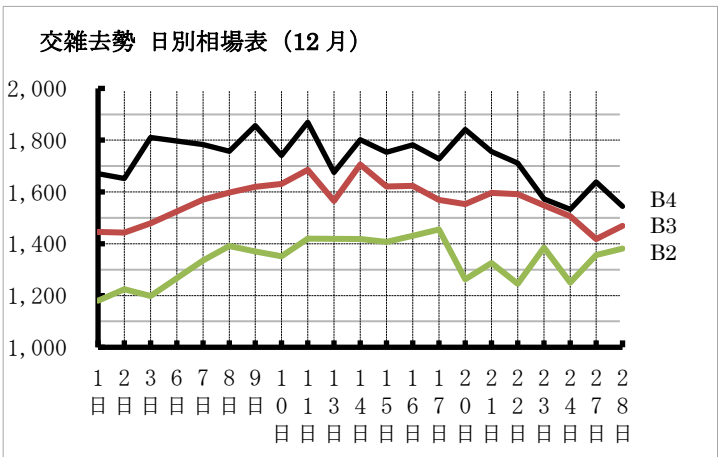
相場は例年通り食肉需要最盛期を迎え、前月より大幅に上昇した。和牛については冷凍保管事業と輸出により下支えされて最需要期を迎えたものの、前年より下げの展開となった。

また、小売り・量販店も前年の巣ごもり特需から一巡しており、原油価格や食品価格の高騰などもあって店頭での食肉価格が上がる環境でなく、交雑種についても前年から下げの展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,866円	-40円 98.6%	126円 104.6%
A4	2,601円	-49円 98.2%	124円 105.0%
A3	2,375円	-12円 99.5%	126円 105.6%
A2	2,041円	-83円 96.1%	124円 124.0%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,726円	-145円 92.3%	41円 102.4%
B3	1,581円	-128円 92.5%	107円 107.3%
B2	1,348円	-155円 89.7%	56円 104.3%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,113円	356円 147.2%	91円 108.9%

＜1月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、11月の輸入量は前年同月比13.7%減の4万2,651tで、うちチルドは23.9%減の1万6,449t、フローズンは前年同月比5.8%減の2万6,202tとなった。チルドは米国産で中国の買いが強く日本向けが減っている。フローズンについても中国からの引き合いが増えたため、豪州産の日本向けオフア数量が少なく高値が継続した。

農畜産業振興機構によると12月の輸入牛肉通関量は7%減の4万5,700tと予測している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,094	9,010	67.6%
	米国	8,121	10,870	74.7%
	その他	2,234	1,728	129.9%
	合計	16,449	21,608	76.1%
フローズン	豪州	11,246	12,170	92.4%
	米国	7,593	11,783	64.4%
	その他	7,363	3,874	190.1%
	合計	26,202	27,827	94.2%

出典：食肉速報

単位：t

＜1月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による1月の出荷予測頭数は、全体で前年比101.6%の8万200頭で、品種別にみると和牛は2.1%増の3万4,500頭、交雑種は11.3%増の1万9,400頭、乳用種は5.6%減の2万4,900頭と予測している。

東京食肉市場の1月のと畜頭数は6,000頭を予定しています。

＜1月の牛枝肉相場見通し＞

新型コロナウイルスの変異株による感染拡大など未だ収束に至らず、コロナ前の状況には程遠い状況となっている。景気の先行き不安や食品価格・光熱費の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しく、出荷頭数も前年より多いこともあり、例年以上に相場高騰する環境にはない。和牛については冷凍保管事業や輸出需要などによる下支えされた価格での展開、交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持されるといった展開の継続が見込まれる。

牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700～2,800	B4	1,650～1,750
A4	2,400～2,600	B3	1,500～1,600
A3	2,200～2,300	B2	1,300～1,400
A2	2,000～2,200		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は、前年同月比3.5%増の150万3,566頭。また、11月の豚肉通関数量は7万8,525t（前年同月比11.3%増）と前年同月を上回った。前月比でも0.8%の増加。内訳はチルドが3万4,153t（11.4%減）、フローズンは4万4,371t（38.7%増）となった。

2020 - 2021年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
比	104%	111%	111%	88%	103%	107%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

11月豚肉通関実績					
国名	冷蔵		冷凍		前年比
	数量	前年比	数量	前年比	
アメリカ	16,475	80.9%	デンマーク	7,949	108.9%
カナダ	16,071	94.2%	スペイン	12,890	256.3%
メキシコ	1,606	141.7%	メキシコ	8,435	127.4%
			アメリカ	2,123	66.7%
			カナダ	2,355	102.3%
合計	34,153	88.6%		44,371	138.7%

単位：t

＜12月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	69,900	532	500	819
2日	67,900	531	504	745
3日	68,700	540	522	953
6日	67,200	544	515	668
7日	71,200	550	535	970
8日	70,600	564	537	648
9日	71,700	555	527	695
10日	69,900	551	525	984
平均	69,638/日			810/日

月初の手当により全体的に荷動きは強まり上物価格は500円を超える展開となった。また、本格的に寒くなり始めたことで鍋物需要によるスライス商材の引き合いが更に強まった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	—	554	528	656
13日	68,500	552	533	844
14日	73,000	590	567	918
15日	73,400	577	556	785
16日	74,600	575	560	685
17日	71,700	562	554	996
20日	73,400	583	561	894
平均	72,433/日			825/日

全国と畜頭数は7万頭を上回る日が続いた。年末に向けた手当によって引き合いが強まったことに加え、輸入豚肉の通関遅れが恒常化する中、特に北米産でタイトな需給が続いたことにより、量販店では国産物へシフトするケースもみられ相場は上中格差もなく締まった展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	77,200	610	595	975
22日	78,700	614	579	800
23日	78,500	608	579	755
24日	75,500	570	553	1,017
25日	—	584	561	718
27日	61,800	646	623	1,092
28日	28,600	678	653	759
平均	66,717/日			874/日

引き続き内食需要が安定していることに加え、鶏肉の需要がひっ迫していることにより、豚肉の引き合いは強い状況が続いた。枝肉相場も上物600円絡みの展開となり、東京のセリ最終日は上物678円の高値となった。

＜1月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による1月の肉豚出荷予測では139万9,000頭（前年比98.7%）と予測している。当市場の1月集荷予定頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約970頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万3,100t（同109.7%）、内訳は冷蔵輸入量が3万4,600t（同103.3%）、冷凍輸入量は3万8,500t（同116.2%）と予測している。

冷蔵品輸入量はカナダでの洪水の影響等から、前月分が繰り越されたことにより前年同月をやや上回ると予測する。また、3ヵ月平均は前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

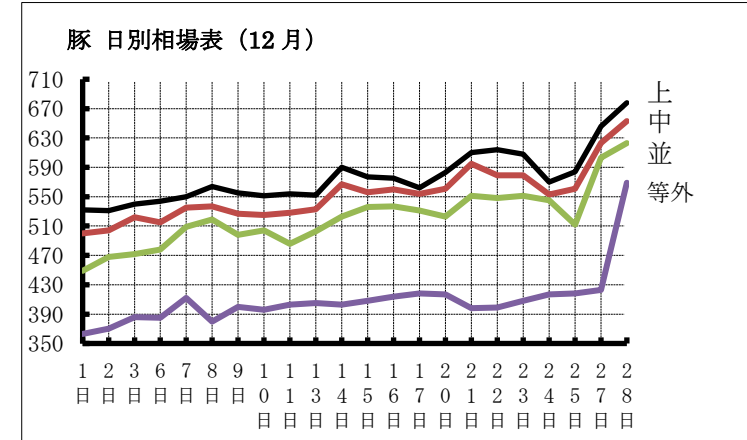
冷凍品輸入量は外食需要の回復が見込まれることに加え、中国の買い付けが弱まったことで相場が下がった欧州産の輸入量が増えていること等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

1月は例年、年末年始の出費の反動によって需要が鈍る時期となるが、上旬は年始の補充買いによりある程度底堅い相場の展開が予想される。

供給面では今後更に厳しい寒さが予想される中、増体不良により出荷頭数に影響がでる可能性がある。

また、輸入はカナダで発生した洪水の影響による入船遅れから、前月分の繰り越しによる増加など不安定な状況が続くとみられ、タイミングによっては国産豚肉相場に影響を受けることも予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は480円前後、中物平均価格450円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127